事業概要2025

国土交通省中国地方整備局

中国技術事務所

3つの柱×DX

Chugoku Infra DX

未来へ向けて

[防災技術センター]
防災活動の支援拠点

[中国インフラDXセンター]
最先端のデジタル技術を体験

中国技術事務所　3つの柱

防災支援
災害時緊急対応をバックアップします

◇ **防**災技術センターとして、地域住民の生命や財産を守るための防災活動の拠点です。中国地方整備局災害対策本部等の指示に基づき、機動性のある災害対策用機械等を出動させ災害対策活動を行っています。

◇ **大**規模災害時の緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）等の派遣とともに活動を行っています。

◇ **迅**速に災害対応を実施するため、災害対策用機械の操作訓練等を実施しています。

技術支援
中国地方の公共事業の品質を支えます

◇ **社**会インフラを巡る老朽化に対する維持管理の調査を行っています。特に、道路施設の安全性等を確保し、長寿命化を図るための調査を行っています

◇ **公**共事業における現場作業の合理化・効率化・安全性の向上及び環境問題に対応した技術開発を行っています。

◇ **河**川・道路などの土木材料や施工に関する調査・試験を行ない、公共事業の品質確保に努めています。

◇ **産**学官の技術交流や情報提供による技術開発の支援を行い、公共工事における新技術活用ｼｽﾃﾑ(NETIS)を活用した情報公開や新技術の普及・促進を行っています。

人材育成
中国地方の未来を築く人材育成を支えます

◇ **中**国インフラＤＸセンターとして、インフラ整備・管理や公共サービスを行う現場において、生産性向上や働き方改革を推進するため、デジタル技術を活用した調査・計画・設計や施工管理、監督検査などに対応できる人材を育成する施設、先進技術の紹介等などインフラ分野におけるＤＸが体験できます。

◇ **中**国地方の建設行政に携わる方々が、それぞれの立場で適切に業務を遂行するための実務的な能力及び総合的な調整能力を持った人材の育成を図るために研修を行っています。

◇ **バ**リアフリー体験や災害対策用機械・研修用構造物の見学など、どなたでもご利用頂ける施設もあります。

防災支援

防災技術センターの役割 ・・・・・・・・・・・・・・ 1
・TEC-FORCEと共に活動

過去の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
保有災害対策用機械・機器・・・・・・・・・・・・・ 4
防災技術者の育成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
・災害対策用機械等訓練

技術支援

道路施設保全技術 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
・道路構造物診断（シェッド・大型カルバート点検評価）
・道路防災診断
・路面下空洞調査
・路面性状調査
・可搬型ハンプ貸出制度
河川環境保全技術 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
・河川環境調査（水質・底質分析調査）
品質確保技術 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
・コンクリート品質確保
・コンクリート構造物の品質確保・向上に向けた取組み
技術開発・普及・活用促進・・・・・・・・・・・・・ 17
・中国地方建設技術開発交流会《産学官連携》
・技術資料収集・保管・提供
（公共工事における新技術活用システム（NETIS））
・建設機械開発調査

人材育成

中国インフラＤＸセンター ・・・・・・・・・・・・・ 20
・中国インフラＤＸセンターの役割
研修所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
・研修・セミナー

体験学習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
・実橋教材モデル・災害対策用機械
・コンクリート・構造物
・降雨体験機
・バリアフリー施設

広報

情報発信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
・中技技術NEWS／中国技術事務所だより／X／Instagram／YouTube
地域との連携 ① ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
・地域イベントへの参加／ 安芸区民まつり開催
地域との連携 ② ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
・近隣自治体や学校との協力
メディアへの積極的発信 ・・・・・・・・・・・・・ 32
・降雨体験機　・応急組立橋の公開
・災害対策用機械　・現場見学会ドローン操縦体験
・中国インフラＤＸセンター開所式・内覧会
出前講座等の利用 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

事務所案内

業務体制・沿革／事務所案内 ・・・・・・・・・・・ 35

防災技術センターの役割

TEC-FORCEと共に活動

防災技術センターは、大規模地震や風水害等による河川・道路等の災害の予防、応急対策、応急復旧等を迅速かつ円滑に進めることや、地方公共団体への支援を広域的かつ機動的に実施し、地域住民の生命と財産を守るための防災活動の機動拠点として、平成18年6月、中国技術事務所に設置されました。

大規模自然災害の発生、または発生するおそれがある場合において、中国地方整備局が、国土交通省防災業務計画及び中国地方整備局防災業務計画に基づき設置している緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）と共に活動します。

◇令和6年能登半島地震　派遣状況

防災技術センターより出動

石川県輪島市：派遣職員の後方支援

◇令和3年8月豪雨　派遣状況

広島県北広島町：
TEC-FORCEドローン班による被災状況調査

広島県豊田郡大崎上島町：排水作業

島根県出雲市①：遠隔操縦装置による作業

島根県出雲市②：地すべり調査技術支援

ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥとは？

緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）は、大規模な自然災害発生時に被災状況の把握や被災地方自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的な支援を迅速に実施しています（平成20年度に創設）

令和５年度

令和6年能登半島地震（石川県能登町ほか）
対策本部車・待機支援車派遣

令和５年度

令和5年台風7号（岡山県鏡野町）
鏡野町要請　応急組立橋無償貸与

令和５年度

令和5年7月大雨（山口県宇部市）
排水ポンプ車派遣

令和３年度

令和3年8月豪雨（大崎上島町ほか）
排水ポンプ車派遣

令和２年度

令和2年7月豪雨（福岡県みやま市ほか）
排水ポンプ車・照明車派遣

令和元年度

令和元年東日本台風（埼玉県東松山市ほか）
排水ポンプ車・照明車等派遣

平成30年度

平成30年7月豪雨（岡山県矢掛町）
矢掛町要請　応急組立橋無償貸与

平成28年度

平成28年熊本地震（熊本県南阿蘇町）
分解組立型バックホウ派遣

平成26年度

平成26年8月豪雨（広島市安佐南区ほか）
排水ポンプ車・照明車等派遣

支援実績

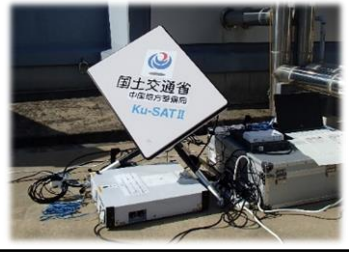
※延べ出動台数

年度	主な災害名（活動場所）	排水ポンプ車	照明車	対策本部車	待機支援車	衛星通信車	その他
R6	令和6年11月台風21号（広島県広島市）	1台	―	―	―	―	※機械管理換えのみ
R5	令和5年7月大雨（山口県宇部市）、台風7号（岡山県鏡野町）、令和6年能登半島地震（石川県輪島市、能登町）	1台	―	2台	1台	―	応急組立橋　1橋
R4	―	―	―	―	―	―	※支援実績無し
R3	令和3年7月豪雨（鳥取県鳥取市）、令和3年8月豪雨（広島県豊田郡大崎上島町ほか）	8台	―	―	―	―	遠隔操縦装置（バックホウ用）1台
R2	令和2年7月豪雨（福岡県久留米市・みやま市・大牟田市、熊本県人吉市）	3台	1台	―	―	―	
R1（H31）	令和元年東日本台風(台風19号)（埼玉県東松島市、茨城県水戸市、宮城県大崎市ほか）、その他大雨（鹿児島件鹿児島市、佐賀県大町町ほか）	8台	6台	2台	―	―	
H30	島根県西部地震、大阪府北部地震、平成30年7月豪雨（広島県安芸郡坂町・安芸郡府中町、岡山県倉敷市、岡山県矢掛町）、北海道胆振東部地震、台風24号など	10台	10台	3台	1台	4台	分解組立型バックホウ　1台 ku-satⅡ　1機、 応急組立橋　1橋
H29	九州北部豪雨（大分県日田市ほか）、6月豪雨（広島県）	1台	3台	―	1台	―	
H28	熊本地震（熊本県嘉島町、益城町、南阿蘇村ほか）、大雨災害（広島県福山市ほか）、鳥取県中部地震（鳥取県倉吉市）、国道186号土砂崩落（広島県北広島町）など	4台	6台	1台	2台	1台	分解組立型バックホウ　1台 遠隔操縦装置（バックホウ用）1台
H27	関東・東北豪雨（茨城県常総市ほか）、台風11号（岡山県瀬戸内市）	4台	3台	―	1台	―	

保有災害対策用機械・機器

機械名	主要諸元	写真	台数	使用目的
対策本部車	拡幅型		1	災害現場近隣に設営して情報収集、会議、宿泊等に使用します。 拡幅型は、車幅の約2倍に拡幅し室内スペースが大きくなります。 バス型、拡幅型ともに衛星携帯電話等の通信設備や冷暖房設備、簡易式トイレ、ベッド等を搭載しています。
	バス型		1	
待機支援車	バス型		1	災害現場における長期的な復旧活動を支援するために休憩・宿泊等に使用できるよう冷暖房設備、ベッド等を搭載しています。
エアテント	縦　6.0m 横　2.0m 高さ　2.5m		2	災害現場において、TEC装備品の保管及びTEC隊員の休息等の場として活用します。
排水ポンプ車	30m³/min級		3	排水ポンプ及び発動発電機を装備し、浸水被害の現場で排水作業を行います。
	60m³/min級		2	

保有災害対策用機械・機器

機械名	主要諸元	写真	台数	使用目的
照明車	ブーム式		3	夜間における現地の復旧作業や、危険箇所の監視を行うための照明設備として使用します。また、他の機械への電源供給にも使用できます。
衛星通信車	中型		1	通信衛星を使用し、遠方の災害対策本部等に被災現場からの中継画像やＦＡＸ、電話連絡の通信を行います。
簡易型衛星通信装置 （Ku-SATⅡ）	可搬型		1	小型でライトバン等に積載して移動ができ、通信衛星を使用し、遠方の災害対策本部等に被災現場からの中継画像やＦＡＸ、電話連絡の通信を行います。
5GHz帯無線アクセスシステム （左：i-RAS） 公共ブロードバンド移動通信システム　（右：公共BB）	可搬型		各1組	i-RASはアンテナの対向通信で約30km程度離れたところから、映像や音声の配信を行います。 公共BBは、車両で移動が困難な被災箇所で、移動しながら現地映像の伝達配信ができます。
橋梁点検車	バケット式		1	屈伸式ブームによるバケットを装備し、橋梁の上から橋梁裏面等の点検、補修等を行います。

保有災害対策用機械・機器

機械名	主要諸元	写真	台数	使用目的
分解組立型バックホウ	1.0m³級 遠隔操縦式		1	導入されている遠隔操縦機能により、危険区域でバックホウを遠隔操作することが可能です。 また、分解して空輸し、現地で組立てることができます。
遠隔操縦装置	バックホウ用		1	バックホウの運転席に装着することにより、危険区域でバックホウを遠隔操作することが可能です。
小型式クローラクレーン	自立分解仕様 2.9t吊り 2.5m級		2	分解組立型バックホウの分解・組立を行うことが可能です。
応急組立橋	トラス式 支間長10～40m (TL-20)		1	橋梁の破損、河川・道路の決壊等の被災箇所に架設して、交通路を確保するためのトラス式橋梁です。
	ﾄﾗｽ式 支間長16～40m (TL-25)		1	

保有災害対策用機械・機器

機械名	主要諸元	写真	台数	使用目的
土のう造成機	150袋/h		1	堤防等の洗掘、越水等における水防工法に使用する土のうを、袋詰めから結束まで自動で行い、短時間に大量の土のうを製造します。
土のう製作器	[土のう用] 4袋/回 5個 16袋/回 1個 32袋/回 1個 [大型土のう用] 1袋/回 3個 2袋/回 1個		11	堤防等の洗掘、越水等における水防工法に使用する土のうを、袋の形状を整えた状態で一度に多数製作することが可能です。
投下型水位計	測定可能範囲 水深40m		1	土砂崩れで、河川の水がせき止められてできた天然ダムの水深を測ることが可能です。
車両移動用 建設機械アタッチメント	フォークリフト用 (2.5t級)		2	放置車両等をフォークリフトにより移動させることができ、災害発生時の迅速な道路啓開を実施します。
車両横断用拡幅排水ホース	全幅　1.5m 長さ　5.0m		12	車両通行時に排水作業を中断しないで排水ホース上を通行可能にするホースです。

災害対策用機械等訓練

災害時に迅速な災害支援を行うため、職員や災害時協定会社による災害対策用機械の操作訓練等を実施しています。

排水ポンプ車操作訓練【職員】

対策本部車（拡幅型）操作訓練【職員】

小型移動式クレーン操作訓練【職員】

排水ポンプ車操作訓練【協定会社】

照明車操作訓練【協定会社】

待機支援車操作訓練【協定会社】

バックホウ・遠隔操縦装置訓練【協定会社等】

応急組立橋架設点検【協定会社】

道路構造物診断（シェッド・大型カルバート点検評価）　［維持管理技術課］

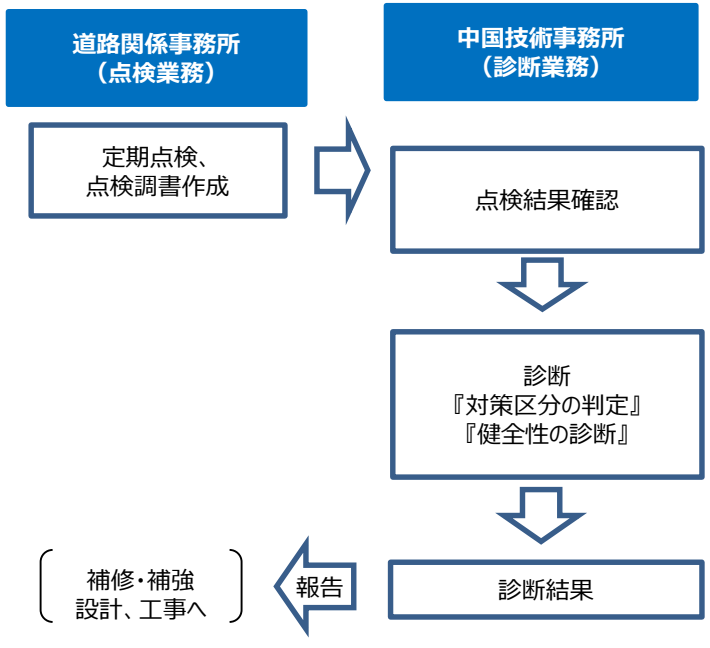
中国技術事務所では、中国地方整備局管内の道路関係事務所において５年に１回の頻度で、近接目視等により点検したシェッド・大型カルバートの点検結果を踏まえ、診断（「対策区分の判定」及び「健全性の診断」）を統一的な視点で行います。
なお、診断結果は道路関係事務所へ報告し、情報を共有しています。

《令和７年度概要》
- シェッド診断：１５基
- 大型カルバート診断：５２基

大型カルバート

どうもん
シェッド（洞門）

道路関係事務所と中国技術事務所との関係



対策区分の判定

構造物を構成する部材毎の重要性や変状の状況を把握した上で、変状の原因や進行の可能性を考慮し、対策の必要性について判定します。また、定期点検後の維持管理に必要な所見も記載します。

対策区分の判定区分

判定区分	判定の内容
A	変状が認められないか，変状が軽微で補修を行う必要がない．
B	状況に応じて補修を行う必要がある．
C１	予防保全の観点から，速やかに補修等を行う必要がある．
C２	シェッド，大型カルバート等の安全性の観点から，速やかに補修等を行う必要がある．
E１	シェッド，大型カルバート等の安全性の観点から，緊急対応の必要がある．
E２	その他，緊急対応の必要がある．
M	維持工事で対応する必要がある．
S１	詳細調査の必要がある．
S２	追跡調査の必要がある．

健全性の診断

対策区分の判定結果を基に、部材毎に健全性の区分を行います。また、構造物全体の健全性の区分を行います。

健全性の診断の判定区分

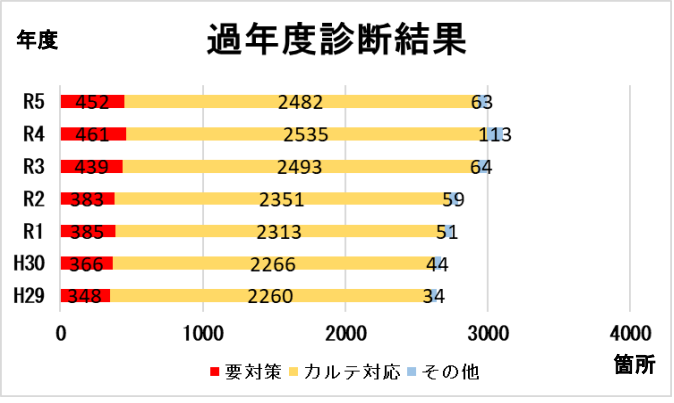
区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態．
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが，予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態．
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり，早期に措置を講ずべき状態．
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている，又は生じる可能性が著しく高く，緊急に措置を講ずべき状態．

（省令・告示：H26.3.31公布、同年7.1施行）

道路防災診断　［維持管理技術課］

道路防災診断は、道路防災総点検に基づく道路防災カルテ点検結果の評価・診断を実施するものです。
道路防災カルテは、道路防災総点検で道路関係事務所が行う点検結果を基に評価・診断を行い、評価・診断された箇所に関して、着目すべき事項等を記載したものです。
中国技術事務所では毎年、前年度の診断結果を基に道路防災カルテ点検に必要な点検用データを作成し、道路関係事務所に提供しています。
道路関係事務所では、提供された点検用データを基に現地調査を実施し、中国技術事務所へ提出します。提出された道路防災カルテ点検の評価・診断を行った後、抽出条件によって現地確認箇所を抽出し、現地確認を踏まえて防災重点診断を実施します。
道路防災カルテ点検結果の評価・診断を統一的な視点で行い、あわせて全国道路施設点検ＤＢ（土工）への登録を行います。

《令和７年度概要》
- 道路防災カルテ点検箇所照査
  （約３，０００箇所）
- 防災重点診断（有識者診断）
- 全国道路施設点検ＤＢ登録

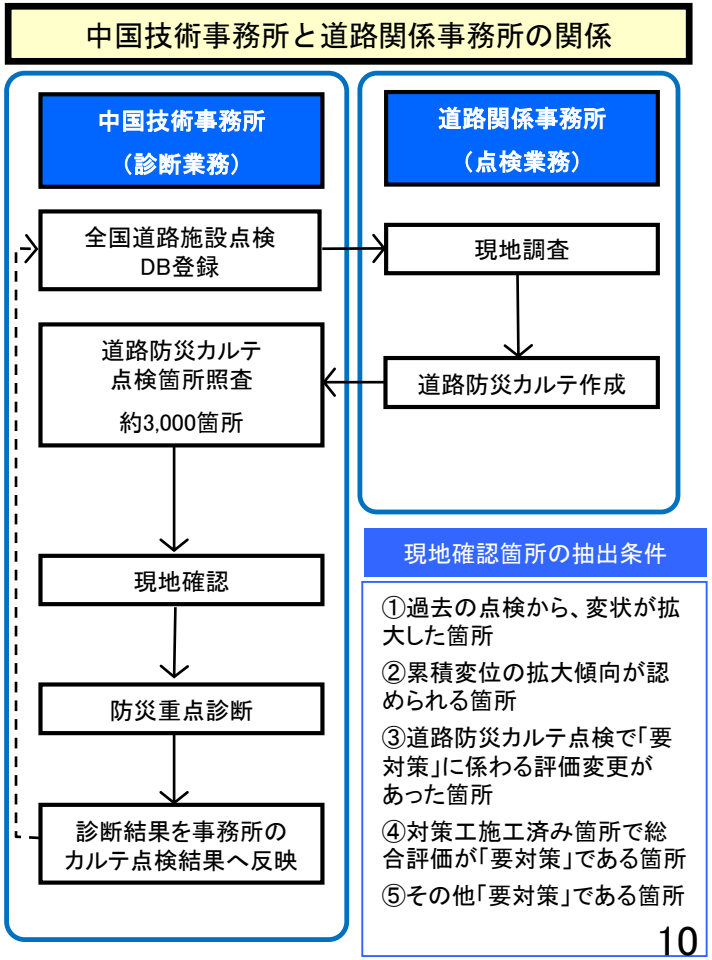


道路防災カルテ総合評価区分

要対策	災害に至る可能性のある要因が明らかに認められる箇所。
カルテ対応	将来的に対策が必要となる場合が想定されるものの、当面「道路防災カルテ」により監視等で管理していく箇所。
対策不要	災害の要因となるものが発見されず、対応を必要としない箇所。

防災重点点検状況

防災重点診断状況



現地確認箇所の抽出条件

①過去の点検から、変状が拡大した箇所
②累積変位の拡大傾向が認められる箇所
③道路防災カルテ点検で「要対策」に係わる評価変更があった箇所
④対策工施工済み箇所で総合評価が「要対策」である箇所
⑤その他「要対策」である箇所

路面下空洞調査　［維持管理技術課］

道路は、その場所（海沿い、川沿い、構造物沿い）や、気象・地質条件（大雨の後等）などの要因により、路面下に空洞ができる場合があります。

そのまま放置しておくと、やがて路面が陥没し、重大な事故に繋がる危険性があります。

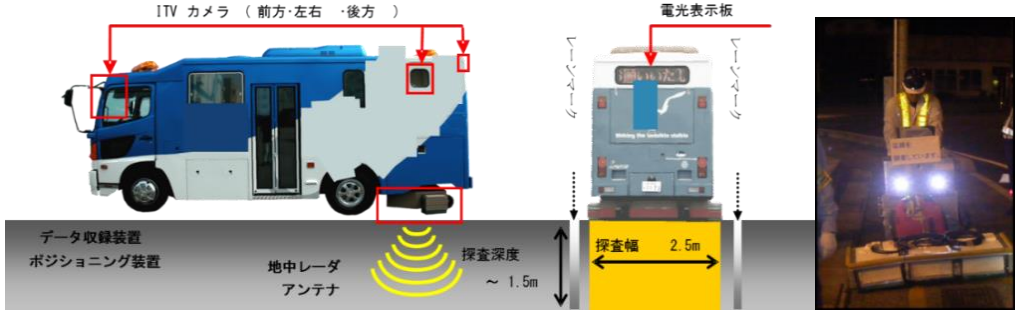
そこで、路面陥没を未然に防止し、道路交通の安全を確保するため、中国地方整備局が管理する一般国道等の路面下空洞調査を行っています。

《令和７年度調査概要》（上半期４月～９月）

・一次調査（車道部）　約　２５０ｋｍ（測線長※）
・一次調査（歩道部）　約　　２５ｋｍ（測線長※）

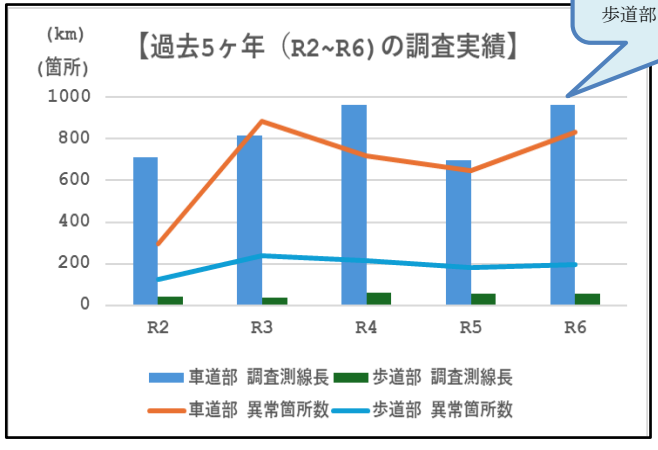
※調査箇所は、過去の空洞発生状況、道路の構造及び周辺状況、地下埋設物の有無等を勘案し、決定しています。

○ 路面下空洞調査の概要

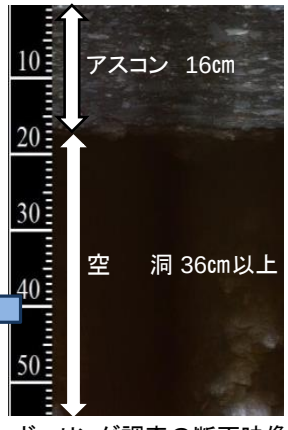


▲車載型地中レーダ探査車（車道部）

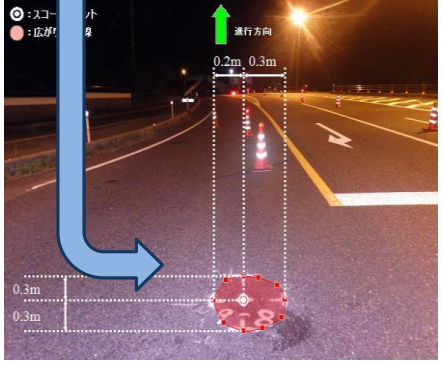
▲歩道部調査状況



Ｒ６年度調査
車道部　961.593ｋｍ、832箇所
歩道部　54.507ｋｍ、195箇所



ボーリング調査の断面映像



過去の調査で発見された空洞事例

R6年度の結果

空洞数（A判定）	A判定検知・連絡数	空洞有り	空洞なし	空洞有の割合
車道	7	7	0	100%
歩道	15	8	7	90%

※Ａ判定：報告後速やかに開削調査を行い、必要に応じて補修を行うことが望ましい箇所

路面性状調査　［維持管理技術課］

アスファルト舗装の性能は、通過交通による直接的な影響だけでなく、降雨や気温等の気象条件等によっても徐々に低下していくため、舗装点検要領に基づき、路面の性状を定量的に把握しておく必要があります。このため、中国技術事務所では中国地方整備局が管理する目視が困難な路線等において、路面性状測定車を使用し、路面のわだち掘れ、ひび割れ、平坦性の調査を行っています。また、管理区間の中から選定した代表箇所のモニタリング調査を行い、舗装の劣化状況も把握します。更に、道路関係事務所が施工した長期保証工事の追跡調査（初年度・中間年・５年目評価時）も実施します。なお、調査後は長期保証制度評価委員会において結果の検証及び評価を行うこととしています。これらの調査結果については道路関係事務所に報告し、今後の維持補修計画の基礎資料として使用されています。

《令和７年度概要》

- 舗装点検要領に基づく調査　約260km
- 長期保証工事追跡調査　約 15km

●路面性状調査の流れ

○現地踏査
・前方映像を録画
・キロ標の確認

（赤枠）部分が業務対象

↓

○現地調査
路面性状調査（わだち掘れ、ひび割れ、平坦性）

↓

○調査結果のデータ解析
（わだち掘れ量、ひび割れ率、IRI）

↓

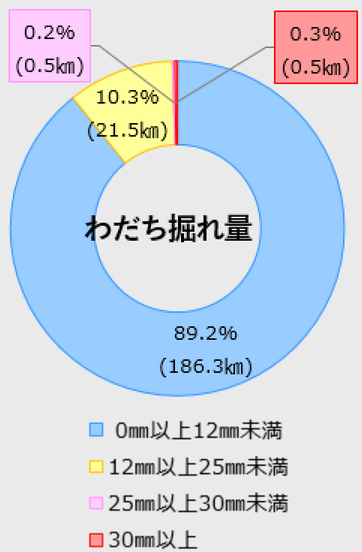
○全国道路施設点検データベースシステムに登録 → **○合理的な道路管理と舗装の維持修繕の基礎データとして活用**

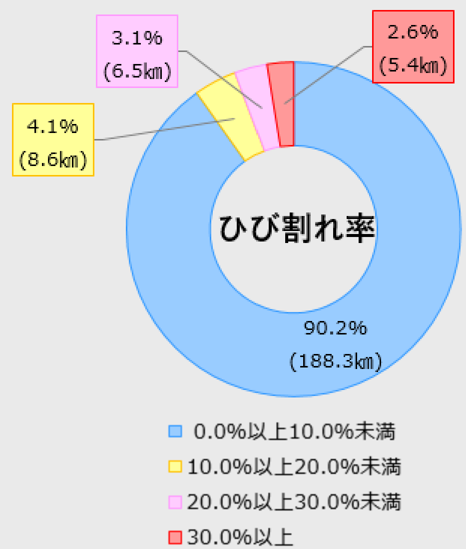
○調査結果を道路関係事務所へ送付 → **○調査結果を基に舗装工事の予算要求に活用**

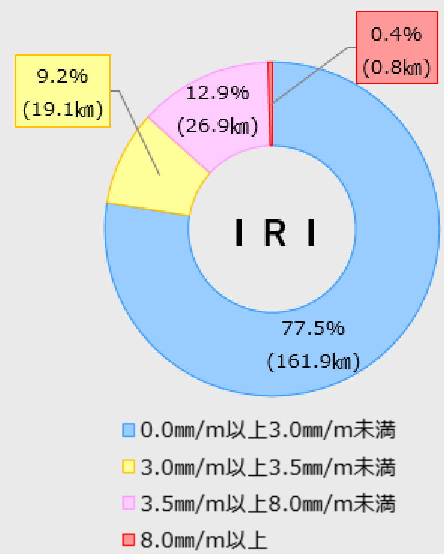
●わだち掘れ（量）
舗装の流動化や磨耗によって起こる横断方向の凹凸で、ハンドルをとられたり水溜りの原因になります。

●ひび割れ（率）
舗装の寿命や水の浸入によっておこるもので、ポットホールや陥没の原因になります。

●平坦性
舗装の縦断方向の凹凸で、主に乗り心地に影響します。







令和５年度調査結果

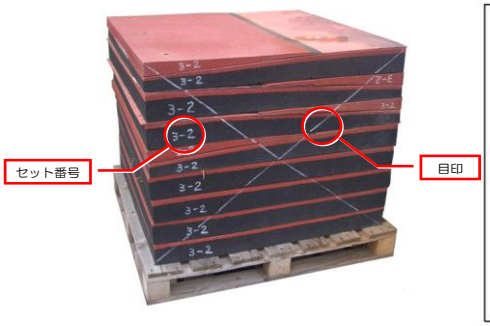
（調査対象道路：鳥取自動車道、鳥取西道路、駟馳山バイパス、青谷・羽合道路、仁摩・温泉津道路）

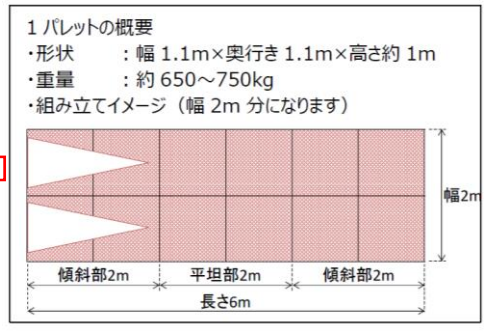
可搬型ハンプ貸出制度　［維持管理技術課］

「生活道路の交通安全の確保に向けた取組の推進について」（平成27年12月22日付国道国防179号、国道交安第37号）に基づく取組の推進にあたり、各地方整備局技術事務所等において、可搬型の仮設ハンプを配備し、速度抑制、通過交通の進入抑制対策の実効性を上げるための試行的設置を推進しています。

ゾーン３０プラス※1に取り組むため、地方自治体の要望に対して『可搬型ハンプ』の貸出を行っています。

ハンプ荷姿（1パレット）





令和4年10月
海田町東小学校前設置

令和4年11月
広島市千田小学校前設置

令和6年9月
廿日市市串戸6丁目設置

設置前

設置完了

下校時の利用状況

車両通過状況

令和3年9月
岡山県津山市設置状況

※1　ゾーン30プラス　：　最高速度30km/hの区域規制と物理的デバイス（スムーズ横断歩道等）との組み合わせ

河川環境調査（水質・底質分析調査）　［防災・技術課］

中国地方整備局が管理する広島県内の一級河川やダムの水質・底質について、生活環境項目及び健康項目等の定期的な分析調査を行っています。

公共用水域の環境保全を目的として、中国地方整備局が管理する一級河川13水系の調査結果を水文水質データベースで公表し、水質年表としてもとりまとめられています。また、河川での魚類のへい死や油流出等伴う水質事故の原因物質調査を行っています。

平成10年からは、中国地方整備局管内における内分泌かく乱化学物質、平成11年からダイオキシン類の調査も実施しており、ダイオキシン類は低い値で推移しています。令和６年度より「河川、湖沼等におけるダイオキシン類常時監視マニュアル（案）R5.4」の改訂により調査地点箇所等の変更を行っています。

平成28年度から広島県内関係事務所に水質事故の際に活用する採水容器を配布しています。

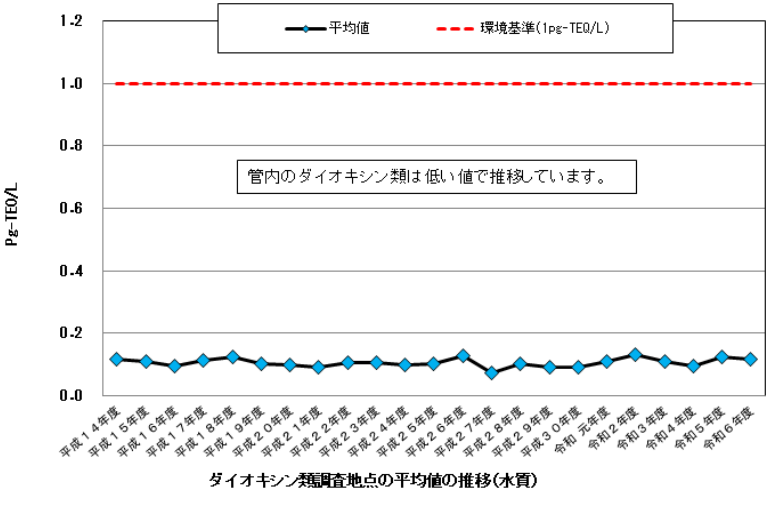
令和７年度　水質、底質分析予定数（概数）

項目	合計
生活環境項目	11,100
健康項目	840
富栄養化関連項目	5,040
地質環境その他項目	2,150
要監視項目	180
地下水項目	140
ダイオキシン類(一般項目含む)	140
底質調査	870
生物調査	330
合計	20,790

【関係各事務所に配布している水質事故の際に必要な採水容器】

令和７年度　ダイオキシン類調査地点

ダイオキシン類（24箇所）	千代川：行徳　天神川：小田　日野川：車尾　斐伊川：大津 宍道湖：No.1、No.3、No.5、斐伊川河口、松江温泉沖、秋鹿沖、玉湯町泉源沖　中海：大橋川河口、中海湖心、米子湾 中央部　江の川：桜江大橋　高津川：金地橋　吉井川：熊山橋、坂根堰　旭川：乙井手堰　高梁川：霞橋　芦田川：小水呑橋　太田川：壬辰橋　小瀬川：両国橋　佐波川：新橋



ダイオキシン類調査地点の平均値の推移(水質)

年月日	時分	採水位置	pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	DO飽和度 (%)	大腸菌群数(1) (MPN/100mL)
2011年01月11日	14時50分	左岸	7.5	1.1	2.2	2	12.2		79
2011年02月01日	14時50分	左岸	7.4	0.5	1.5	2	12.9		33
2011年03月01日	14時50分	左岸	7.2	1.0	2.4	9	11.6		490
2011年04月19日	14時50分	左岸	7.4	0.8	1.8	2	11.7		130
2011年05月10日	14時50分	左岸	7.4	0.9	2.5	4	9.7		3300
2011年06月07日	14時50分	左岸	7.7	1.0	2.2	2	10.4		2200
2011年07月05日	15時50分	左岸	7.3	0.8	3.4	11	8.8		13000
2011年08月02日	15時50分	左岸	7.7	0.8	2.3	2	9.4		2300
2011年09月06日	15時40分	左岸	7.5	0.6	3.2	4	8.8		2200

国交省のＨＰにおいて分析結果を公表

コンクリート品質確保　［品質調査課］

■ 中国技術事務所が行う調査

長寿命化をめざしたコンクリート構造物の構築を目的として、平成13年度より、中国地方整備局管内の発注工事（各県５現場程度）の重要構造物におけるレディーミクストコンクリートの品質確認試験及びデータ収集を行っています。

この調査では、スランプ試験・空気量試験等のフレッシュ性状試験、現地で作製した供試体の指定材齢における圧縮強度試験を行っており、これらの試験結果をもとに分析を行い、コンクリート構造物の品質確保・向上に努めています。

実 施 内 容

フレッシュ性状試験

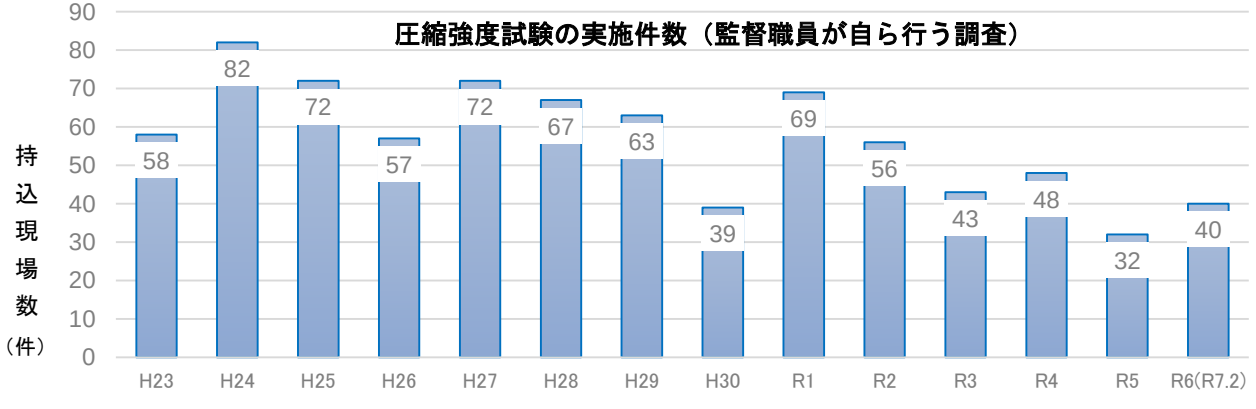
施工実態ヒアリング

打込み・締固め確認

圧縮強度試験

■ 監督職員自らが行う調査

レディーミクストコンクリートの品質管理については、過去にコンクリートへの加水問題などが発生したことを踏まえ、より一層の品質確保を図ることが求められています。このため、中国地方整備局の監督職員自らがフレッシュ性状試験を行い、作製した供試体の圧縮強度試験について、中国技術事務所の職員自らが試験を行い強度確認しています。

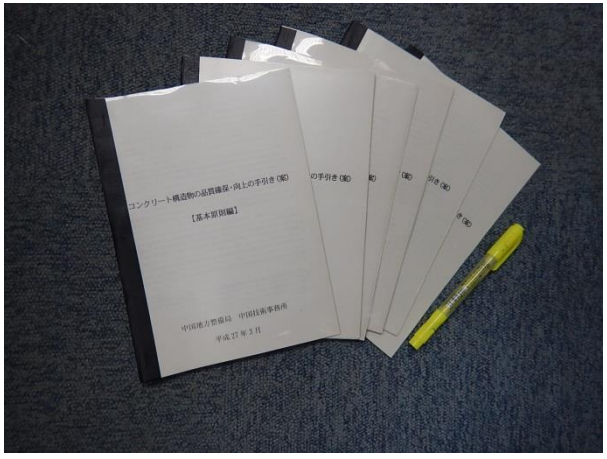


コンクリート構造物の品質確保・向上に向けた取組み　［品質調査課］

昨今、高度成長期等に整備した社会インフラの老朽化問題が顕在化しつつあります。社会インフラの主要材料であるコンクリートの品質確保・向上に取り組むことが、ひいては構造物の長寿命化につながるものと考えています。

そこで、中国技術事務所では、コンクリート構造物の設計(材料)段階、施工段階、維持管理段階における、課題の抽出および対応策など技術的留意点を各プロセス毎に分かりやすくまとめた「コンクリート構造物の品質確保・向上の手引き(案)」「温度ひび割れ制御対策の手引き（案）」の２種類作成しています。

各建設プロセス毎の手引き（案）



実効性を向上するためのチェックリスト

コンクリート構造物の品質確保・向上のチェックリスト　【材料編】　1/1

チェック実施者　所属　実施年月日　年　月　日

材料編

手引き(案)の目次		チェック項目	チェック	備考
1	基本原則(材料段階)	・設計者、施工者のニーズを十分理解したか		
		・構造物に求められている品質向上・耐久性向上方法を検討したか		
		・設計者、施工者に対して品質向上・耐久性向上方法を提案したか		
		・品質向上・耐久性向上に関わる協議結果を確実に記録したか		
2	一般	・コンクリートを構成する材料は、JISに適合したものを標準として使用したか		
3	ひび割れ抑制対策			
3.1	温度ひび割れ抑制	・温度ひび割れ抑制のため、低発熱型セメントの使用、単位セメント量の低減、単位水量の低減を実施したか		
		・水和発熱抑制のため、低発熱型セメント、混合セメントを使用したか		
		・単位水量の低減および水和熱による温度上昇の低減のため、混和材を使用したか		
		・単位水量の低減のため、混和剤を使用したか		
3.2	収縮ひび割れ抑制	・自己収縮ひび割れ抑制のため、単位セメント量の低減および総水和熱量の小さいセメントを使用したか		
		・乾燥収縮ひび割れ抑制のため、単位水量の低減や、混和剤・混和材の使用を実施したか		
		・乾燥収縮量を低減するために収縮低減剤を使用したか		

技術支援【長生きコンクリートへの挑戦】

	Ａ４版	Ａ５版
◆コンクリート構造物の品質確保・向上の手引き（案）		
中国技術事務所のホームページに掲載しています。		
コンクリート構造物の品質確保・向上に向けた取組み	●	
手引き（案）の使用にあたって	●	
ポケットブック版の作成要領		●
【基本原則編】	●	●
【設計編】	●	●
【材料編】	●	●
【施工編】	●	●
【施工編（監督・検査）】	●	●
【維持管理編（巡回・巡視）】	●	●
チェックリスト(Wordで開きます)	●	
◆温度ひび割れ制御対策の手引き（案）		
本編	●	
巻末資料	●	

※Ａ５版は、ポケットブックとして現場等でご活用下さい。

この手引き(案)を活用し、各建設プロセスの技術者が理解を深めて実行することにより、コンクリート構造物の耐久性の向上が期待できます。

今後は、現場での品質確認試験等で得られる情報を蓄積・解析し、更なるコンクリートの品質確保・向上を目指して、この手引き（案）を順次改訂していくこととしています。

令和４年度、温度ひび割れに関する設計段階および施工段階で各担当者が担う役割や照査方法、対策内容等を分かりやすく示した温度ひび割れ制御対策の手引き（案）を作成しています。

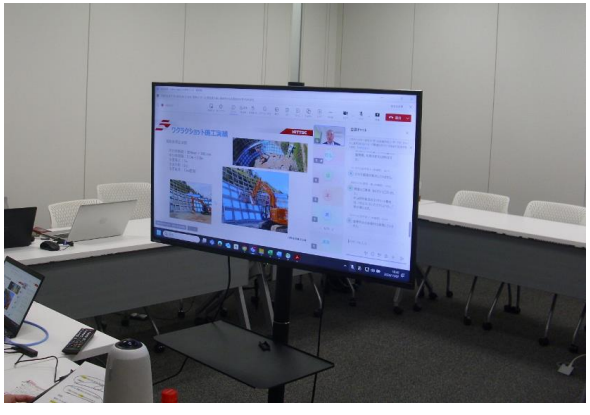
中国地方建設技術開発交流会　［施工調査・技術活用課］　《産学官連携》

中国地方建設技術開発交流会は、産学官による新技術・新工法の普及、活用を図るための技術交流を目的とした建設技術に関する発表会であり、平成９年度から開催しています。

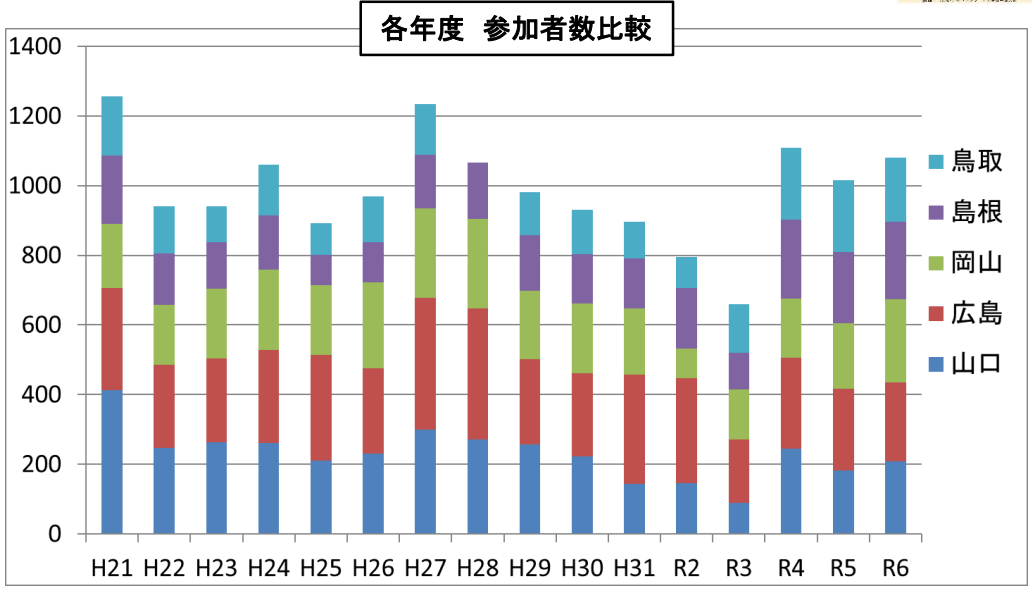
令和６年度は、「災害に強く住みよい豊かな暮らしを目指して」をメインテーマに、働き方改革の実践を進めるために、発表者・受講者ともにオンラインで参加頂きました。参加者は延べ1,081名でした。（令和６年度もＣＰＤ／ＣＰＤＳを付与を行い、多くの方に参加頂きました。）

＜基調講演＞
　大学・工業高等専門学校の教員による建設技術や情勢に関しての講演
＜学官技術発表＞
　学校関係、中国地方整備局または地方公共団体等で研究開発された技術や新技術・新工法の活用成果の発表
＜技術開発支援制度による開発技術発表＞
　（一社）中国建設弘済会が行っている技術開発支援制度助成課題の成果についての発表
＜民間技術発表＞
　民間開発による新技術及びその活用状況などに関する発表

交流会の運営状況



令和６年度は、働き方改革の実践を進めるため、発表者もオンラインで発表し、聴講者もオンラインで受講しました。



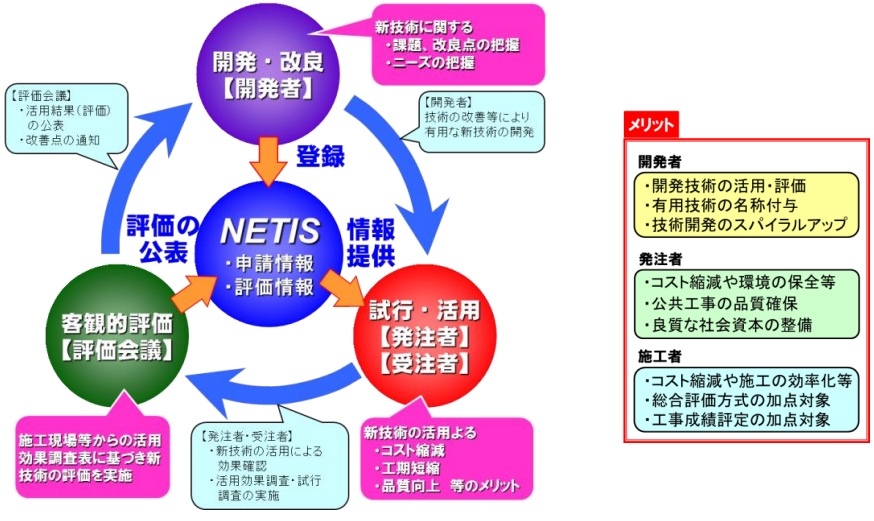
技術資料収集・保管・提供

（公共工事における新技術活用スキーム）

～民間で開発された技術を積極的に活用するために～

国土交通省において、民間等で開発された優れた技術を公共工事等において積極的に活用していくために「新技術活用スキーム」を運用しています。

新技術情報提供システム（NETIS：New Technology Information System）を中核とする新技術情報の収集と共有化、直轄工事等での活用、効果の検証・評価、更なる改良と技術開発という一連の流れを体系化したものです。



NETIS（新技術情報提供システム）の掲載情報

・NETISは、一般に公開しています（一部非公開資料あり）

・新技術の情報は適宜、追加、削除が行なわれています

・工種やキーワード等で簡単に新技術の検索が可能です

・新技術の概要、適用条件、従来技術との比較、施工方法等、各種情報を掲載しています

・現場活用した結果等の実績について掲載しています

◇新技術活用スキーム運用における中国技術事務所の役割

中国技術事務所では、

①開発者からの新技術を登録・更新

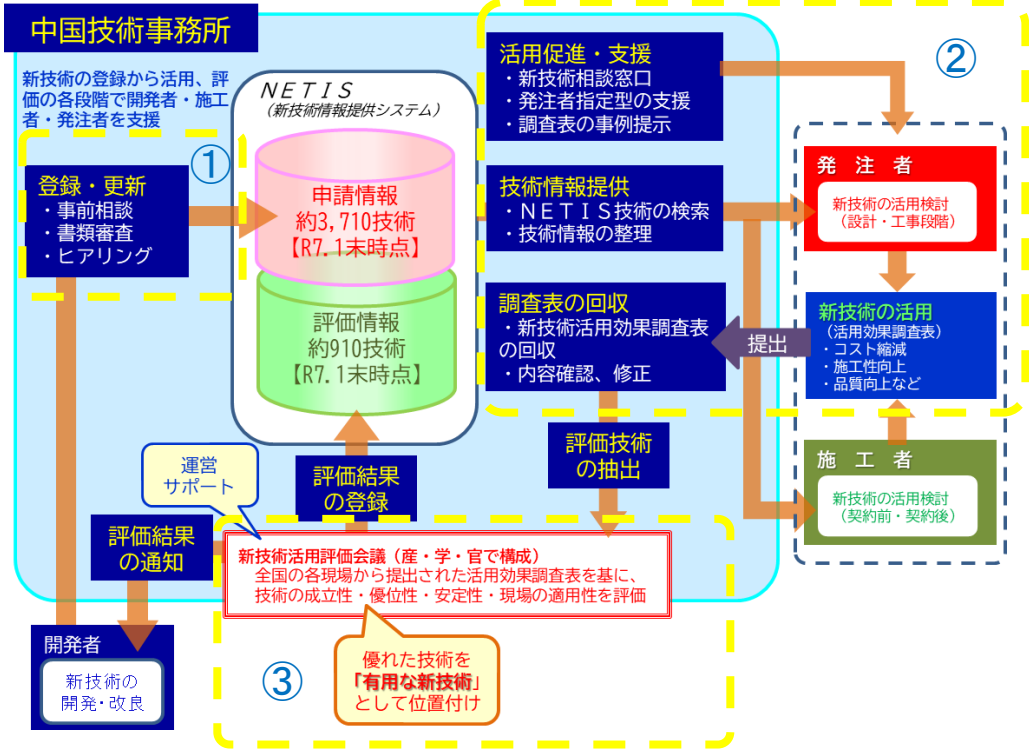
・事前相談、書類審査、ヒアリング

②新技術の活用促進の支援

・相談窓口、活用効果調査表の収集・確認、事例提示

③新技術の評価

・新技術活用評価会議の運営の支援



建設機械開発調査　［施工調査・技術活用課］

施工の効率化、省力化、安全性能の向上等を図るための建設機械及び施工技術における施策展開に関する技術開発を実施しています。

車両横断用拡幅型排水ホースの開発

災害復旧活動における課題

排水作業中に堤防道路上を緊急車両等の通行が頻繁にあり、その都度排水作業を中断して排水ホース上を通行させる必要があり、排水作業が非効率となっていました。

自衛隊・警察・消防、工事用車両の通行車線

排水中の排水ホースは直径が20cmあるため、車両が乗り越えては通行できない。

↓

車両通行の度に排水を中断し、ホースを萎ませることで、車両の通行を確保していた。

開発技術：車両横断用拡幅型排水ホース

排水作業を中断することなく緊急車両の通行を可能とし、軽量かつコンパクトな排水方法とホース形状を検討し、車両横断用拡幅型排水ホースを開発しました。

項　目	形　状
確保する車両最低地上高	０．０９ｍ
全幅	１．５　ｍ
総重量	ホース重量１７．５ｋｇ（取付金具含まず）
長さ	５．０　ｍ
材料厚さ	０．８５ｍｍ
材質	ターポリン（ポリエステル基布の両面に塩化ビニルフイルムを貼付。）

大型車両による500回程度の走行において耐久性に問題無いことを確認

標準排水ホースと拡幅型排水ホースの接続状況

中国インフラＤＸセンターの役割

中国地方整備局では、「i-Construction2.0」のトップランナー施策である施工、データ連携、施工管理のオートメーション化を担う様々なＤＸ技術をいち早く体験出来る拠点として機能させ、その普及促進の一助とすることを目的として、中国技術事務所内に『中国インフラＤＸセンター』を開設しています。

「i-Construction2.0」の一環として、国が普及を強力に進めている「ICT施工」の一連の流れを体験可能なメニューを準備しています。

○施設概要

中国インフラDXセンターは、DX技術に関する「広報」「体験」「育成」を行う施設です。

本センターは令和5年7月18日より暫定運用を開始しました。この暫定運用で得られたニーズや意見・課題等を把握・検討し、改良・改善を進め、令和6年12月18日より本格運用を開始しました。

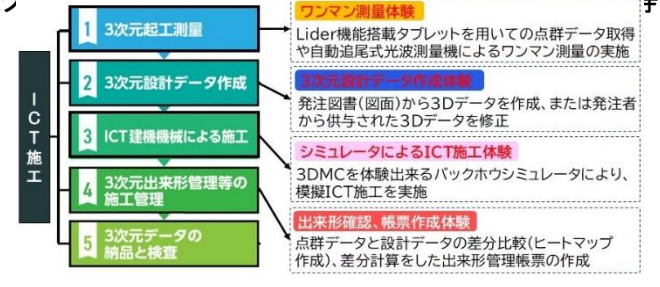
◆DXルーム

DXルームでは、行政職員や民間建設技術者などに最新のDX技術を実際に体感・体験して頂き、これらの技術を活用して業務の効率化を進めるとともに、災害や建設などの現場で生かしてもらうことを目的としています。

また、次世代の担い手となる学生や一般の方々に技術体験を行って頂くことで関心を高め、幅広くDX技術を扱う人材の育成を行います。

【DX体験メニュー】
- 3次元測量・設計体験【3次元測量技術を用いた施工管理】
- AR（拡張現実）体験【AR技術による構造物の施工イメージの可視化】
- VR（仮想現実）体験【VR技術による施工現場などの疑似体験】
- 無人化施工体験【バックホウ実機の遠隔操縦・シミュレータ操縦体験】
- 遠隔臨場体験【コンク[illegible]等】

Chugoku Infra DX



3次元測量・設計体験

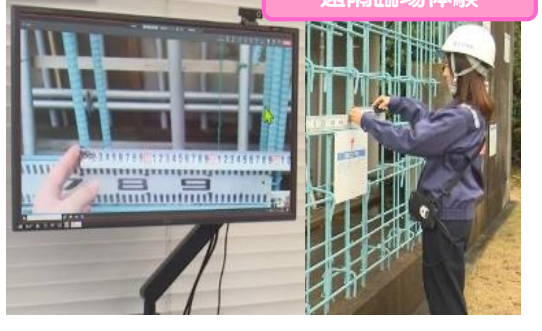
AR（拡張現実）体験

VR（仮想現実）体験

無人化施工体験

中国インフラDXセンターの役割

遠隔臨場体験



研修・セミナー

施設概要

■開　所　年：昭和48年

■教　室　数：3室：第1研修室, 第2研修室, i-con研修ルーム（討議ルーム1室）

■教室定員　：第1研修室36名, 第2研修室30名, i-con研修ルーム20名, （討議ルーム20名）

■宿泊室数　：21室（男性居室×17室、女性居室×4室）

■宿泊定員　：21名

■その他設備：食堂, 風呂, トイレ, 洗面所等

研修所　外観

中国技術事務所研修所では、中国地方整備局職員や整備局管内の地方自治体職員を対象に、計画的に研修やセミナー等を実施しており、実践的なスキルの向上を図ることによって、中国地方の未来を築く人材の育成を支えています。

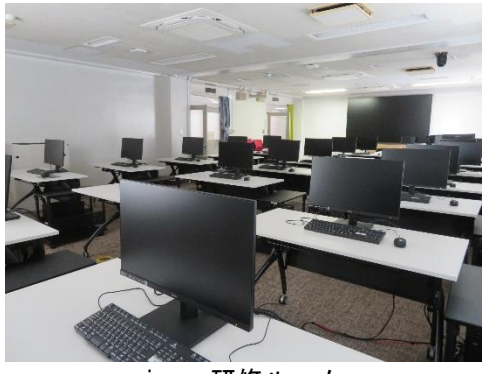
研修所は、全寮制を原則とした規律正しい生活のもとで集中的・効率的に研鑽する場として、また、研修生同士が親睦や交流を深める場として、重要な役割を果たしています。

令和5年度から、「i-con研修ルーム」と「討議ルーム」の運用を開始しました。

i-con研修ルームでは、高性能PCを用いた3D CADソフトの操作実習などをメインとする研修の会場として活用しています。

討議ルーム（旧OA室）では、ゼミナールや班別討議などを行うスペースとして運用を行っております。

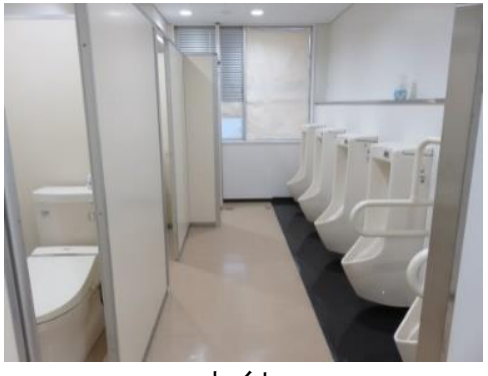
第１研修室


i-con研修ルーム

討議ルーム

食堂

宿泊室（1室1名利用）


トイレ

研修・セミナー

新規採用職員～管理職職員までの各階層及び地方自治体を対象として、年間約30コースの『研修』と、研修を補完する約20コースの『セミナー』を計画的に実施します。

職員が、それぞれの職責を全うするため、職階に応じて必要とされる専門的知識・技能を修得させ、さらに組織の一員としての振る舞いや円滑なコミュニケーションを図る能力及び指導力等の総合的な能力の向上を促すことにより、多様化する国民ニーズに的確かつ臨機に対応しうる人材を育成することを目標としています。

（行政中級研修）

座学風景

（用地測量セミナー）

測量実習（中技構内）

（TEC-FORCE（被災状況調査班）研修）

被災状況調査実習

（3D CADセミナー）

BIM/CIM実習

（トンネル管理実務者Ⅰ研修）

構造物点検実習

（コンクリート技術セミナー）

コンクリート練り返し実習

研修・セミナー

◇速やかな被災状況把握に対応する取り組み

TEC-FORCEによる被災状況調査、事業広報等において、職員が直営で小型無人航空機を運用し、機動的に活動出来る体制を確保することを目的として、令和元年度から『小型無人航空機（操縦者）研修』を実施しています。

研修では、小型無人航空機の操縦に必要となる基礎知識（機体について、航空法における飛行ルール、安全管理等）の習得や航空法の許可申請に必要となる10時間の飛行経験の確保を図ります。

座学

実習（組立）

実習（フライトシミュレーター）

飛行訓練（屋外）

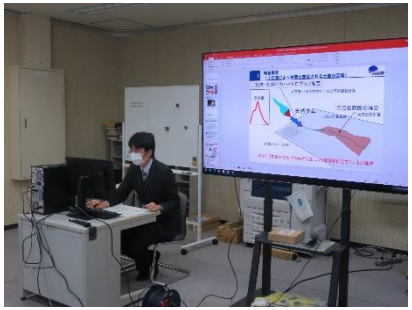
撮影映像確認

◇多発する土砂災害に対応する取り組み

砂防技術に関する総合的な専門知識及び土砂災害防止法に基づく緊急調査等に関する知識・技術の修得を目的として、平成27年度から『砂防・土砂災害対応研修』を実施しています。

研修では、国土交通本省や国土技術政策総合研究所、土木研究所、大学の先生による講義をはじめ、天然ダムの氾濫シミュレーション演習や実機ヘリを使った天然ダム計測等を行い、砂防技術者として必要な専門知識の修得を図ります。

計測機器実習


土石流氾濫ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ演習
（緊急調査用プログラムQUADを使用）

ヘリからの天然ダム計測訓練

研修・セミナー

◇道路及び河川施設の老朽化に対応する取り組み

高度経済成長期などに集中的に整備された橋梁やトンネル等の構造物が今後急速に老朽化することが懸念されており、橋梁やトンネルについては「必要な知識及び技能を有する者が」「近接目視により」「５年に一回の頻度で」「健全性の診断」をすることが道路法の改正により定められました。そういった背景もあり、平成26年度から道路及び河川施設の維持管理を担当する実務担当職員を対象とした点検エキスパート研修(橋梁管理実務者研修、トンネル管理実務者研修、河川点検・評価実務セミナー）を実施しています。本研修は、管理者として確実な維持管理（点検・診断の適切な実施・評価）が行われるよう、必要となる知識・技能を修得することを目的としています。

（橋梁管理実務者Ⅰ研修）

橋梁点検　現地演習

（橋梁管理実務者Ⅰ研修）

橋梁点検　現地演習

（橋梁管理実務者Ⅱ研修）

橋梁補修工事　現場見学

（トンネル管理実務者Ⅰ研修）

トンネル点検　現地演習

◇生産性向上に向けた職員のデジタル技術向上に対応する取り組み

建設現場の生産性向上に向けて、測量・設計から、施工、さらに管理にいたる全プロセスにおいて、情報化を前提とした「i-Construction」を2016年度より取り組んでいます。

中国地方整備局職員におけるデジタル技術能力の習熟のため、研修所に設立された「i-con研修ルーム」や中国技術事務所に併設された「DXセンター」を活用した３次元データの知識・技能を修得することを目的に各種研修・セミナーが計画されています。

（インフラDX・i-con研修）

座学

（3D CADセミナー）

DX技術体験

（インフラDX・i-con研修）

i-con機器操作実習（屋外）

（インフラDX・i-con研修）

i-con機器操作実習（屋内）

体験学習

中国技術事務所では、一般団体・地方自治体及び学生の方々等に事務所構内施設や災害対策用機械の説明を行っています。下記に利用できる施設の紹介をしています。詳しくは中国技術事務所までお問い合わせ下さい。

実橋教材モデル

中国地方整備局管内で老朽化等で撤去された特徴のある橋梁を事務所構内に備え、研修やセミナーの教材として活用しています。その橋梁を利用した、損傷のメカニズムや点検時のポイントの把握、打音点検の実体験が出来ます。

実橋教材モデル

実橋教材モデル説明

点検時の説明

打音点検の体験

◇令和６年度実績（６団体 計94名）
◇令和５年度実績（５団体 計95名）
◇令和４年度実績（１団体 計63名）

◇令和３年度は新型コロナ感染防止対策のため実績はありません。
◇令和２年度実績（３団体 計50名）
◇令和元年度実績（６団体 計177名）
○平成15年度以降の累積実績：９０団体・約3,608人

災害対策用機械

排水ポンプ車見学状況（R6.7）
見学者：一般者

対策本部車見学状況（R7.2）
見学者：一般者

照明車操作体験（R6.10）
見学者：自治体職員

分解組立型バックホウ見学状況
（R7.3） 見学者：小学生

コンクリート・構造物

中国技術事務所では、構造物における現場施工工程と施工不良や配筋状況が学べる構造物モデルを保有し、一般団体・地方自治体及び学生の方々等を対象の研修やセミナーに活用しています。

◇　橋梁モデルの内容

橋脚各部に作用する荷重に抵抗する鉄筋の配置方法を学ぶことができます

- ➢躯体：　主鉄筋、帯鉄筋、中間拘束筋の配筋状況
- ➢フーチング：　主鉄筋、配力筋、スターラップの配筋状況
- ➢杭：　杭の鉄筋とフーチングの鉄筋との関係

主要寸法

- ➢躯体：　2.0m×4.0m（高さ3.0m）
- ➢フーチング：　6.0m×5.4m
- ➢杭径：　φ1.2m

◇　ボックスカルバートモデルの内容

ボックスカルバートの現場施工手順を、ブロック別に製作

基礎砕石　⇒　均しコンクリート　⇒　底版・擁壁配筋
⇒　底版コンクリート打設、内型枠、側壁・頂版配筋
⇒　側壁外型枠　⇒　側壁・頂版コンクリート打設

施工不良モデル

鉄筋コンクリート構造物にみられる主な施工不良を、ブロック別に製作

- ➢鉄筋継ぎ手不良、鉄筋被り不良
- ➢鉄筋ピッチ不良、清掃等の打設前処理不良
- ➢ジャンカ、コールドジョイント、型枠締め付け材の未処理
- ➢クラック、はらみだし、あばた、ジャンカ

◇　逆Ｔ式擁壁スケルトンモデルの内容

逆Ｔ式擁壁の施工手順や配筋状況などわかるコンクリート打設前を製作

- ➢鉄筋のラップ状況
- ➢鉄筋の段取り筋設置状況
- ➢スペーサー設置状況
- ➢鉄筋かぶりの状況

《活用状況》

函渠モデルの説明（自治体職員）
現場施工の工程と、施工不良（鉄筋かぶり不良、コールドジョイント等）のモデルを展示

橋梁下部工・橋脚モデルの説明（自治体職員）
橋脚の躯体・フーチングの実際の配筋状況を再現したモデルを展示

施工不良モデルの説明（自治体職員）
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造物（施工中、施工後）に起こりやすい事象のモデルを展示

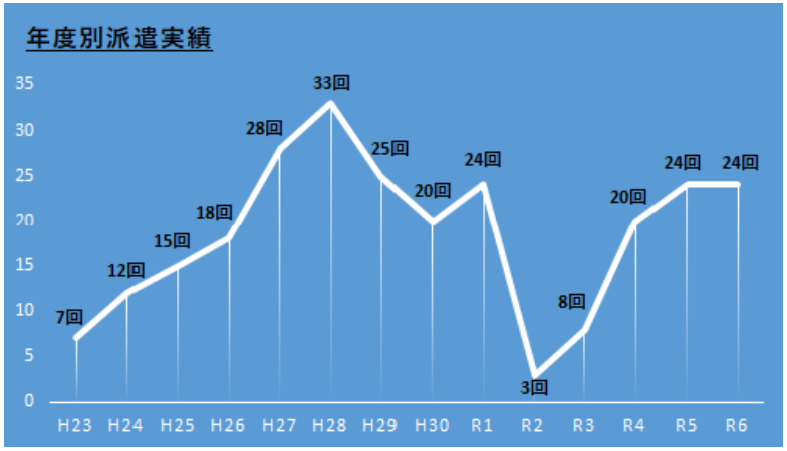
降雨体験機

平成２５年７月２８日の山口・島根の豪雨災害、平成２６年８月２０日の広島土砂災害、平成３０年７月の豪雨災害等、中国地方において近年、甚大な災害が頻発しています。

中国地方が真に安全・安心な地域となるためには、ハード整備だけでは限界があり、地域住民の主体的な避難など防災意識の向上や、そのためのソフト対策が極めて重要です。

中国技術事務所では、従来より各事務所への降雨体験機の貸出しを通じて地域の危機管理意識の醸成に取り組んで来たところです。

令和３年度からは、ビデオ視聴とコンテナ型降雨体験機による防災教育プログラムが行えるものを貸出し、防災学習会やイベントに参画しています。令和６年度は、３千人を超える方に体験して頂きました。（民間への直接貸出は行っておりません）



降雨体験機の派遣回数は、増加傾向にあります。中国地方住民の方たちの防災意識向上に貢献しています。

雨の降り方や水害の起こり方、水害時の避難方法をビデオ学習

最大300m/mの雨や10mの風と浸水ドアの実体験

中国技術事務所イントラネット（「中技図書館」⇒「デジタル映像資料ライブラリ」）に、豪雨時の視界と騒音を再現したＣＧ映像を掲載しています。これは、気象庁ＨＰで公開されている「雨の強さと降り方」を参考にし、製作したものです。

防災学習等において、時間雨量がどの程度のものか、説明する際の資料などにご活用ください。

雨の強さと降り方

バリアフリー施設

高齢者、身体障がい者等の方々が利用しやすい道路構造を中国地方整備局職員自ら体験し、構造研究を行うための施設を整備しています。

平成15年度から、道路利用者の方々に道路施設への理解及び高齢者・身体障がい者等の方々への理解を深めていただくため、一般の方々にも体験していただける施設を整備しています。

①歩車道段差体験コーナー

歩道と車道の高低差、歩車道境界ブロックの形状を色々変えて、10種類の横断歩道部をイメージしています。

【自治体職員　R6年度】

②スロープ(傾斜路)体験コーナー

12%、10%、8%、6%のスロープを設置しています。

【小学生　R6年度】

③車の出入口部での歩道体験コーナー

車両出入口部における横断勾配（歩道の構方向の傾き）の大きなすりつけをイメージしています。

④歩車道段差確認コーナー

「交通バリアフリー法」に基づいた歩道と車道の段差2cmを体験することを目的とし、比較として段差0cmのものを設置しています。

【自治体職員】

⑤高齢者疑似体験コーナー

シニアカー（電動カート）を運転して高齢者の日常生活を擬似的に体験することができます。

【一般者　R6年度】

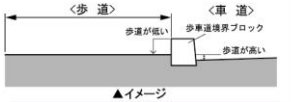
⑥視覚障がい者誘導ブロック体験コーナー

視覚障がい者を対象とした誘導ブロックと舗装の輝度比を確認する施設です。

【一般者　R6年度】

⑦望ましい歩道体験コーナー

・「道路の移動円滑化整備ガイドライン」に準拠したセミフラット形式の歩道を設置しています。
・舗装については、透水性舗装（雨水が舗装面を通過するので水たまりができにくい）というものを採用しています。



【セミフラット歩道とは】
車道面より歩道面が高く、歩車道境界ブロックの上面より歩道面が低い歩道のことです。
車の出入口部での段差ができにくく、また車道からの雨水が流れ込みにくい構造となっています。

【一般者　R6年度】

◇令和６年度実績（５団体　計100名）
◇令和５年度実績（２団体　計65名）
◇令和４年度実績（１団体　計63名）
（新型コロナ感染拡大防止対応のため）
◇令和３年度実績はありません。
◇令和２年度実績（２団体　計24名）

講演風景【小学生　※R1年度】

小学校４年生のバリアフリー体験では、社会福祉団体の方を講師に招きました。

情報発信

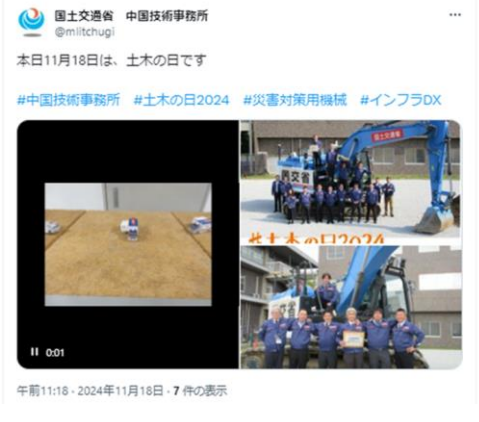
中国技術事務所においては、 皆さんに事業の理解や取組を知っていただけるよう各種広報媒体を活用した発信を行っています。

○中国技術NEWS　・・・・・職員向け
○中国技術事務所だより・・一般向け
○YouTube　　・・・・・・一般向け
○X（旧Twitter）　・・・・一般向け
○Instagram　　・・・・・・一般向け
○デジタルサイネージ・・・一般向け(特に地域の方)詳細はP39
（協力：府中町、海田町）

中国技術だより・中国技術ＮＥＷＳ

X（旧Twitter）

Instagram



YouTube

地域との連携 ①

地域イベントへの参加

地域のイベントに参加することで私達の活動内容を知ってもらうとともに、防災意識の啓発を図っています。

R6.6.8
海田町防災フェア

R6.10,27
ふちゅう防災王国

R6.10.30~31
建設技術フォーラム

安芸区民まつり開催（中技会場）

第41回『安芸区民まつり』の防災･防犯体験会場として中国技術事務所を開放しました。災害対策用機械の見学や降雨体験やゲームなどをして災害対策活動を知っていただきました。

R6.11.10

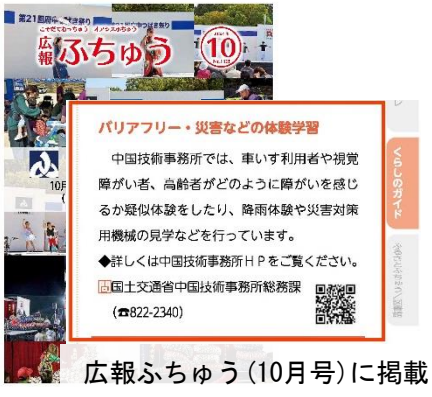
地域との連携 ②

近隣自治体や学校との協力

広島県立安芸府中高等学校美術部と海田高等学校美術部の皆さんに協力していただき、イラストを制作していただきました。
それらを活用して宣伝素材を作成し、近隣の広島市安芸区役所、海田町、府中町などとも連携し、広報活動を行っています。

海田町役場に掲載した
デジタルサイネージ

安芸府中高校美術部の皆さんによるイラスト



広報ふちゅう(10月号)に掲載

チラシに掲載

府中町役場に掲載した
デジタルサイネージ

海田高校美術部の皆さんによる
デジタルサイネージ

安芸府中高校美術部の皆さんが来所し、ＤＸ体験と降雨体験をしました

出前講座を実施し、中技のお仕事
を知っていただきました

メディアへの積極的発信

降雨体験機

梅雨時期を前に降雨体験機の取材を受けました。
水害の怖さを体験してもらいました。

降雨体験機

テレビ局の取材（2社）

応急組立橋の公開

事務所構内に組み立てられた応急組立橋の組立状況を公開し、仮設方法などの説明と見学を実施しました。また、TV局による取材を受けました。

構内の応急組立橋

テレビ局の取材

災害対策用機械

対策本部車を紹介する企画でTV局による取材を受けました。
TEC－FORCEの活動についても紹介されました。

テレビ局の取材

災害協定締結企業による分解組立型バックホウの操作訓練を公開し、目視による操縦とモニター画面による操縦訓練を実施しました。
また、TV局による取材を受けました。

テレビ局の取材（２社）

メディアへの積極的発信

中国インフラＤＸセンター開所式・内覧会

令和6年12月18日に「中国インフラＤＸセンター」が開所しました。事前体験会の様子をTV局1社と業界新聞1社、開所式と内覧会の様子をTV局4社と地元新聞社2社に取材いただきました。

事前体験会の様子（テレビ局）

取材を受ける近藤事務所長

開所式（林局長挨拶）の様子

テープカットの様子

内覧会での取材の様子

現場見学会ドローン操縦体験

広島南道路工事現場での現場見学会にてドローン操縦体験を実施しました。TV局2社による取材を受けました。

テレビ局の取材（２社）

出前講座等の利用

出前講座

皆さまからのご注文に応じて、各種会議、イベント、現地見学会、町内会、子供会、学校の授業等に中国地方整備局職員がおじゃまして、川、道路、ダム、港等についての取り組みや職員の専門的知識を活かしたお話をお届けします。

中国技術事務所の施設や災害対策用機械を活用した施設見学や出前講座についてご相談ください。

○川の役割について考えよう
○DXって何だろう
○降雨体験から防災について考えよう
○災害対策用機械の役割について考えよう
○バリアフリー体験からわかること　　等々

お問い合わせ先
中国技術事務所　総務課長
TEL082-822-2340
FAX082-823-1402

出前講座HP
（中国地方整備局）

防災学習ポータルサイト（国土交通省）

教育現場でも活躍する防災に関する様々なコンテンツをご用意しています。

国土交通省 防災学習ポータルサイト

防災学習ポータルサイトHP（国土交通省）

業務体制

中国技術事務所

- 所長
  - 総括技術情報管理官
  - 副所長（３名：事務・技術・機械）
  - 技術情報管理官
  - 専門調査官（２名）
  - 建設監督官
- 総務課
  - 事務所全体の調整、総合窓口、広報、福利厚生、各種契約関係、物品購入、国有財産管理に関する事務を担当
- 防災・技術課
  - 研修所に関する業務、現場の技術ニーズに基づき、建設技術の開発等に関する業務や防災に関する技術支援、災害関連情報の収集等の業務を担当
- 施工調査・技術活用課
  - 各種建設機械等に関する開発調査業務、各種災害対策用機械の管理運営、建設技術情報の収集・管理及び利用に関する業務、新技術活用促進に関する業務、インフラＤＸに関する業務を担当
- 品質調査課
  - 河川や道路等、社会基盤施設の機能向上や適切な維持管理を支援するために各種調査・試験を担当、インフラＤＸに関する業務を担当
- 維持管理技術課
  - 道路の保全、維持管理のため、道路構造物、法面防災、路面管理技術等に関する技術的支援を担当

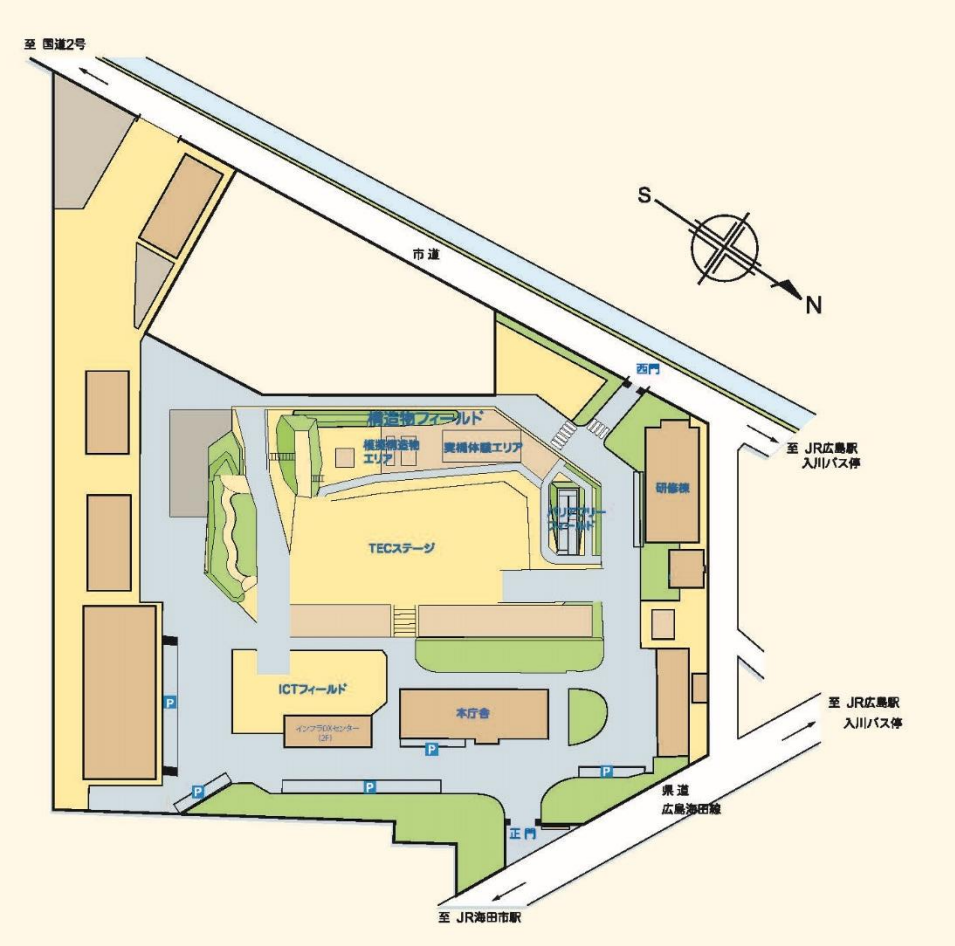
中国技術事務所は、中国地域のニーズに密着した災害対策機械の出動や災害対策活動等の「防災機動拠点」、社会インフラの保全、維持管理のための調査、技術開発、土木材料の調査、試験、新技術の普及、促進等の「技術イノベーション・マネジメント」、実務的な能力や総合的な調整能力を養う研修等の「人材育成」を行っています。

沿革

昭和21年　6月　1日（1946）	内務省中国四国土木出張所広島機械工場を広島市楠木町に設置
昭和23年　1月　1日（1948）	建設院中国四国地方建設局広島機械工場に名称変更
同年　7月　1日	建設省中国四国地方建設局広島機械工場に名称変更
同年　9月　1日	建設省中国四国地方建設局広島工作事務所に改称
昭和26年　6月　1日（1951）	建設省中国四国地方建設局広島機械整備事務所に改称、広島県安芸郡船越町に設置
昭和33年　6月　1日（1958）	建設省中国地方建設局広島機械整備事務所に改称（四国地建分離）
昭和39年　7月　1日（1964）	建設省中国地方建設局広島機械事務所に改称
昭和41年　4月　1日（1966）	建設省中国地方建設局広島技術事務所に改称。技術管理業務開始 材料試験出張所を広島市八丁堀に設置
昭和45年　2月 28日（1970）	広島技術事務所新庁舎落成
昭和46年 10月　1日（1971）	建設省中国地方建設局中国技術事務所に改称。 中国電子計算センターを広島市八丁堀に開設、電算業務開始
昭和48年 10月　3日（1973）	中国地方建設局研修所を構内に新築、研修を強化充実
昭和55年　4月　7日（1980）	電算業務を企画部電算情報課に引継
平成13年　1月　6日（2001）	国土交通省中国地方整備局中国技術事務所に改称
平成18年　6月 22日（2006）	中国地方整備局の防災技術センターとして運営を開始
平成26年　4月　1日（2014）	インフラの老朽化対策強化のため維持管理技術課を設置
令和 5年　7月18日（2023）	中国インフラＤＸセンター暫定運用開始
令和 6年　12月18日（2024）	中国インフラＤＸセンター開所　本格運用開始

事務所案内

事務所構内図



アクセス

■ **バスの場合**

広島駅南口 16番乗り場(ｴｷｼﾃｨ･ﾋﾛｼﾏ付近)から
海田市方面行き（約15分乗車）

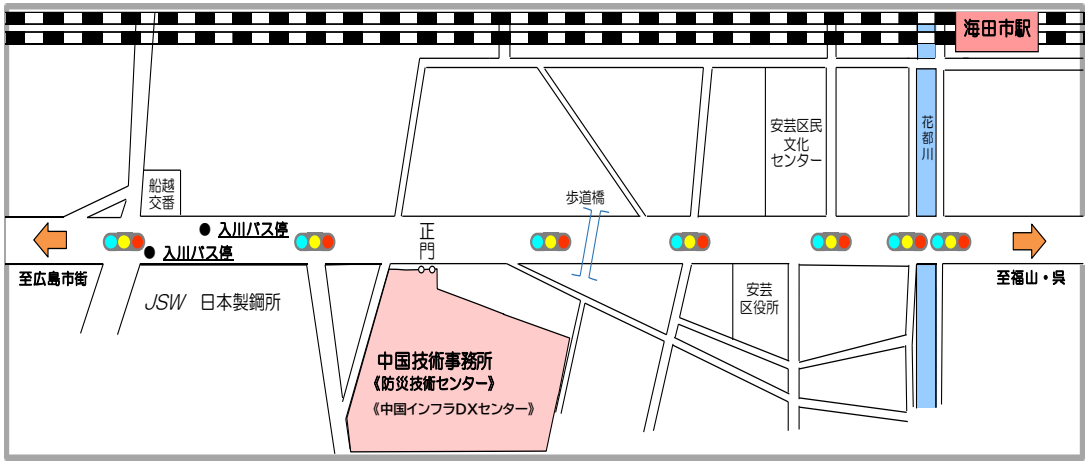
バスセンター5番乗り場から
海田市方面行き（約30分乗車）

入川バス停下車　東へ徒歩５分

■ **ＪＲの場合**

広島駅から　山陽本線(上り)
または
呉線（上り）（約10分乗車）

海田市駅下車　西へ徒歩15分



国土交通省中国地方整備局

中国技術事務所

《中国地方整備局防災技術センター》
《中国インフラDXセンター》

〒736-0082
広島県広島市安芸区船越南2-8-1
TEL:082(822)2340（代表）
FAX:082(823)1402（代表）
E-mail：cyugi@cgr.mlit.go.jp

中国技術事務所
ホームページ

中国技術事務所
@mlitchugi

中国技術事務所
公式 Instagram

中国技術事務所
YouTube

Chugoku Technical and Engineering Office

事業概要 2025